

### 今こそ起こそう！新たな福祉の風を！北の大地から 第五十七回全日本手をつなぐ育成会全国大会レポート

爽やかな初秋のもと、第五十七回全日本手をつなぐ育成会全国大会が、平成二十年九月十三日(土)から十四日(日)の二日間にわたり、北海道札幌市のホテルロイトン札幌で、約二五〇〇人の参加により開催されました。大阪市からは笹野井理事長をはじめ、役員六名が参加しました。

大会第一日目の十三日は、分科会が開催されました。

第一分科会は、『育む』をテーマに、障害の多様化と教育の在り方について、家庭と学校の関わり方についてなど、本人の意見とともに、行政の立場、施設の立場、市議会議員の立場から、それぞれ提言がなされ、学齢

期の保護者を中心に熱心な議論が行なわれました。

第二分科会は、『働く』をテーマに、企業就労への取り組みについてなど、佃煮作りのお店で働く小樽のNさんなどの体験発表に加えて、東京都育成会、企業と福祉の融合を目指す企業関係者から発表がありました。

第三分科会は、『暮らす』をテーマに、暮らすための所得保障について、グループホーム・ケアホームの暮らしについてなど、本人たちの発表とともに、施設を運営する社会福祉法人の関係者から、提言されました。

第四分科会は、『歳を重ねる』をテーマに、『親が元気になるうちにどんな暮らしを創れるかなど、弁護士の立場から、当事者の立場から、

施設の関係者の立場から、切実な報告がされています。

第五分科会は、『これからの育成会活動を考える』をテーマに、又、第六分科会は、『障害者自立支援法と育成会』をテーマに、当事者の立場から、学識の立場から、施設運営の立場から、それぞれ意見発表、提言されました。

大会第一日目には、本人大会も同時開催され、①地域で生きる、②本人活動、③本人による本人のための相談、④虐待・権利について、⑤仕事について、⑥思い出観光など六分科会に分かれて議論を深めました。

大会第二日目の十四日は、育成会・本人合同全体会が開催されました。

合同全体会では、手をつなぐ母の歌斉唱のあと、大会式典が行なわれ、全日本理事長表彰では、当育成会の大西理事が受章されま

した。永年のご尽力に感謝いたしますとともに本当におめでとうございます。

引き続き、記念講演として、歌手の高石ともやさんの『いただいた命を生きる』をテーマにトーク&フォークライブが行なわれました。すべての人は、いただいた命、普通にしっかりと生ききることを、自分の人生体験、ガンと闘っている妻のことを想いながら、暖かい気持ちと笑顔で、懐かしい思い出の歌を交えながら、話されました。

人は生まれたときに、先ず名前をいただく。親は名前を付けるときに、親の願いと愛があります。これが人生のスタート。さまざまの人生を歩むことになりましたが、ゆつくりと歩むことを一緒にいた祖父から学ぶ。又、フォークソング仲間からは、ケガで血を流せば、周りは気がつくけど、心の病気、心に血が流れて

いても気が付かないことも多い。それを直す仕事をしたいと歌を忘れて精神科医になった仲間のこと。ことばで人を殺すことができる、大切な人のことば。喜びは貯金できないが、悲しみや恨み、憎しみはいつまでも消えない。それゆえに、いつも小さなことでも、無理にでも喜ぶこと、笑顔をつくることなどをさりげなく訴えられ参加者の心に強く響きました。

人と人とながりの中で、葛藤など自分の体験を踏まえて、いただいた命を生きることをお聞きした有意義な記念講演でありました。

各分科会の内容は、来月号で詳しく報告いたします。